

<株式会社エフエム東京 第351回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成20年9月2日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室

3. 委員の出席：委員総数8名

◇出席委員（6名）

| | | | |
|-------|-----|------|------|
| 子安美知子 | 委員長 | 青池慎一 | 副委員長 |
| 内木文英 | 委員 | 内館牧子 | 委員 |
| 横森美奈子 | 委員 | 香山リカ | 委員 |

◇欠席委員（1名）

渡辺貞夫 委員

◇社側出席者（10名）

後藤 代表取締役会長
富木田 代表取締役社長
唐島 常務取締役
黒坂 常務取締役
石井 常務取締役
小谷 常勤監査役
村上 執行役員編成制作局長
延江 編成制作局次長 兼 番組制作部長
内藤 編成制作局編成部長

◇社側欠席者（0名）

◇オブザーバー：藤村 番組プロデューサー

◇【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題

- (1) 最近の活動について
- (2) 番組試聴：「ap bank radio! THE LAST WAVE」ダイジェスト版
2008年5月10日・17日（土）22:00～22:55放送分

<試聴時間：約20分>

≪議事内容≫

議題1：最近の活動について

◎ 北京オリンピック展開について

北京五輪の開催期間中、報道情報センター部員2名と技術部員1名を北京に派遣し、日本人選手の活躍とその素顔、インタビュー、世界新記録、現地の盛り上がりなどを中心に随時生レポートを放送しました。実況中継は、野球準決勝と女子マラソンで実施しました。

また、五輪開催前には、渋谷スペイン坂スタジオに2mを越える「星野JAPANビッグユニフォーム」を展示。このユニフォームに、夏川りみ、林真理子ら、多数の番組出演ミュージシャン、文化人、そして一般の方々にも応援メッセージを書き入れて頂く企画を実施し、多くの一般紙、スポーツし、TVワイドショーにて取り上げられました。なお、このユニフォームは五輪担当アナウンサーにより、北京五輪野球の会場へと届けられました。

◎ 「SCHOOL OF LOCK!」が10代限定夏フェス「閃光ライオット」を開催

「SCHOOL OF LOCK!」では、8月10日（日）、10代のアマチュアバンド限定ライブイベント『閃光ライオット』を、東京ビッグサイト野外駐車場特設ステージにて開催しました。

この企画では、出場バンドを決定するまでに全国から約5,000通の応募が集まり、スタジオ審査、ライブ審査の過程で「着うた」配信した応募者音源が約8万ダウンロードを記録するなど、参加者のハイレベルな楽曲が大きな反響を呼びました。イベント当日は最終選考に残った計16組がライブを披露。会場には出場者と同世代の10代のリスナーら約6,000人が早朝から駆けつけ、優勝バンドには賞金100万円が贈られました。同イベントは来年も開催を予定しております。

◎ サザンオールスターズ 30周年記念ライブをFM53局で同時放送

FMラジオの魅力とFMケータイの利便性を改めて実感してもらうために今年3月に実施した全国民放 FM53局同時生放送企画「桑田佳祐 アコースティックライブ in 石垣島」。その第2弾として、日産スタジアムで4日間に渡り計30万人を動員して行われた「サザンオールスターズ 30周年記念LIVE 真夏の感謝」の最終日24日の模様を90分間に凝縮した特別番組を、8月31日（日）午前1:00～2:30、FM53局で同時放送しました。

この企画は、石垣島ライブに続き TOKYO FM が中心となって作業を進めたもので、この夏最大のイベントとなった同ライブの模様を、桑田佳祐氏自身からの要望もあり、FMラジオならではのサウンドミックス・編集により放送したものです。リスナーからは、

『日本中でみんなが、いろんな気持でこのライブをラジオで聴いているんだなあと思うと、不思議な一体感がわきあがりました。観客のさざなみのような歓声、桑田さんの明るい歌声、ラジオに耳をくっつけて聴き入りました』

『音だけなのでさらにライブのときの気持ちや興奮が甦り、映像とは違う感動…というより感慨がありました。FMケータイで聴いたので、曲目リストや歌詞もすぐにサーチでき、改めてサザンの詞の意味を考えながら聴きました』など、約5,000件に及ぶ感想が特設サイトに寄せられました。

◎ 日本放送文化大賞東京地区審査「苑子ちゃんの手紙」中央審査候補に選出

日本民間放送連盟が実施する「第4回日本放送文化大賞」の東京地区審査会が8月1日に行われ、TOKYO FM が制作した「苑子ちゃんの手紙」が、ラジオ部門・エンタリー全8作品の中から、中央審査候補作品として選出されました。ウィリアムズ症候群の障害を持った中学3年生の松井苑子ちゃんが、音楽を通して成長していく姿を追ったドキュメンタリーです。グランプリ、準グランプリは10月28日の第56回民間放送全国大会にて発表されます。

※ なお、TOKYO FM は第1回日本放送文化大賞で「ザ・ライン」が準グランプリを受賞、第3回では「SCHOOL OF LOCK！」がグランプリを受賞しています。

◎ 日本民間放送連盟賞東京地区審査「SCHOOL OF LOCK！」中央審査候補に選出

本年度の東京地区審査会が7月25日に行われ、TOKYO FMが制作した「SCHOOL OF LOCK！」が、エンターテインメント番組部門（ラジオ）で東京地区参加エントリー5作品の中から、中央審査候補作品として選出されました。ロックバンド「くるり」の2人が浜松の女子高吹奏楽部と数日間に及ぶ特訓合宿に臨んだ中で生まれた、アーティストと生徒の垣根を越えた交流を放送したものです。中央審査の結果は、9月下旬に発表されます。

議題2：番組試聴

【番組名】 「ap bank radio! THE LAST WAVE」

【放送日時】 2008年5月10・17日（土）22:00～22:55放送

【番組概要】

1990年から“Earth Conscious 地球を愛し感じる心”をステーションキャンペーンとして提唱してきたTOKYO FMでは、2008年4月より、環境に関する様々なプロジェクトに融資を行う非営利組織「ap bank」とのコラボレーションによる新番組をスタートさせました。

ap bankは、音楽プロデューサーの小林武史氏、Mr.Childrenの櫻井和寿氏らを中心に設立され、融資活動の他にも、音楽とオーガニックフードを楽しむ野外イベント「ap bank fes」などのイベント開催が毎年話題を集め、彼らの活動とメッセージは多くの若者の支持を得ています。

そして、この番組のコンセプトは「明日もし世界が終わるとしたら…」。

番組名の「THE LAST WAVE」には“最後の電波”と“最新の流れ”の2つの意味が込められており、「世界が終わる夜に考えることこそ、いま最も必要なことだろう」という想いが原点となっています。番組は、ap bank イベントに参加のミュージシャンや、環境活動家の方々などを毎回迎えてのトークと音楽、地球最後の夜をテーマにしたラジオドラマ、環境に関するクイズ、などのコンテンツから構成されています。また、番組提供の日本テトラパック株式会社の協力により、JFN系38のネット局全社内には飲料容器の回収BOXが設置されるなど、番組発の活動にも発展させています。

本日はその中から、「100万人のキャンドルナイト」呼びかけ人・マエキタミヤコさんをゲストに迎え、5月10日・17日の2回に渡って放送された回を、ダイジェスト版でお聴き頂きます。

パーソナリティは、ライブイベント「ap bank fes」にも3年連続で出演しているアーティスト・GAKU-MCと、写真家の東野翠れんです。

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 「ap bank fes」は、参加したことはないものの、いまの若い人たちのいい部分を感じられるイベントという印象がある。一方で、イベントの参加者にも、この番組の聴き手（パーソナリティ、リスナー）にも、そこで聞いたことを鵜呑みにしすぎる瞬間があるように感じる。「へ～」と聞くだけでなく、「本当か?」「こうした方がいいのでは?」「そう言われてもできない」など、若者らしい疑問や素朴な反応がもう少しあってもよかったのではないかな。
- 「環境」に関することは、それを持ち出すだけで正義であるかのような風潮になっているが、本当のところ、その実情や活動の効果などはわからない部分も多い。この番組も、内容としては面白かったが、詳しく聴き手にとっては、世間離れして感じてしまう部分もある。土曜日の夜、一番安らぎたいときに、この番組を聴いて心地よいかどうかということも意識した方がよい。環境問題をエンタテイメントとして扱うのはよいが、もう少し生活感覚とリアルに結びつけるような方向性だとよいと思った。
- 最近街を歩いていると、「昔は川べりも綺麗だったなあ」などと感じることが多くなった。難しい知識よりも、単純にそうしたことを思いながら生きている人も多いと思う。環境問題について知識だけを伝えるのではなくて、人間と自然の結びつきといったものを改めて意識させるような、そうした想いや感覚も伝えられる番組だとよいと感じた。

- 非常に面白く啓蒙的で、番組としては素晴らしいと思った。一方で、内容の濃い良い番組であるほど、満足感からくる満腹感で、長時間聴取には適さない部分もある。それでも内容の充実とスポンサーの獲得の両立を目指していくなれば、覚悟をもってスポンサーを説得し続けていって欲しい。
- 構成台本はあるのか？
 - 番組進行上の基本の台本フォーマットは作成。ゲストの方には、トークパートのテーマを十分に理解して頂いた上で、自由に語って頂いている。
- 誰をゲストにするのかも考える必要がある。頭ごなしに「エコ」を連発されると、うんざりしてしまうリスナーもいるだろうし、今回のゲストのマエキタミヤコさんの喋りは、少々はしゃぎすぎなところもある。制作側が工夫して軌道修正するなどできたら、よりよい。例えば、興味を持たれやすい高尾山についての話を頭に持ってくるなどすると、もう少し聴きやすさが違っていたのではないか。
- 番組コンセプトである「世界が終わる夜に考えること」という部分が盛り込まれていなかったが？
 - 放送では、ゲストに必ずそれについての質問を入れている。このダイジェスト版ではその部分が盛り込まれていなかった。
- せっかく TOKYO FM の個性がよく表れた良い番組であるだけに、制作側にも、もう一工夫練る必要があると思った。
- 番組にも多様性があるべきだし、このように知識が得られる啓蒙的な番組も一つの個性なので、大事にしてぜひ続けていってほしい。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

<第351回放送番組審議会議事録>

- ① 放 送：番組「Heart Sharing」
9月28日（日） 6：00～8：30放送
- ② 書 面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は10月7日（火）に開催することを決めた。

以 上